

令和4年 10月 20日

正和会視察報告

報告者 石川義郎

日時 令和4年10月 20 日（木）13時30分から 16 時30分

場所 長野県長野市松城町 松代城跡、真田宝物館、真田邸、文武学校

参加者 石川義郎、山崎貴裕、小林貢、小澤芳輝、佐藤弘治、幡垣正生、武藤政義、
串田金八（議席番号順）

目的

令和4年全国市議会議長会フォーラムが3年振りに長野県のホクト文化ホールで開催され、正和会も8名で参加した。フォーラム閉会后、第4部として松代町の郷土資料である松代城跡、真田宝物館、真田邸、文武学校を視察しました。この視察を通じて長野県南東部にある松代町の歴史、伝統、文化を学ぶことにより、改めて福生市の歴史、伝統、文化を振り返り、我々一人ひとりが、郷土愛を育むことを目的とする。

1、松代城跡



松代城は武田信玄が上杉謙信との川中島の戦いにおいて、武田側の拠点として築城されて

いる（築城時期は不明）。その後、江戸時代に真田信之が松代藩主となり、松代城を中心に真田 10 万石の城下町を築き上げ発展を遂げる。真田家 10 代、約 250 年間、真田家の居城であった。明治時代に廃城となり建物は壊されたが、1981 年国の史跡に指定され、2004 年石垣、木橋、堀等が復元された。

2、真田^{ほうもつ}宝物館



真田宝物館は長野市松代町にある真田家の文化財を収蔵する市立の博物館で、1966 年（昭和 41 年）に、真田家 12 代当主・真田幸治氏が同家に伝わる大名道具（武具、調度品、書画、古文書など）を当時の埴科郡松代町に寄贈したことにより、1969 年（昭和 44 年）に真田宝物館として開館した。寄贈された資料には、国の重要文化財である「青江の大太刀」など貴重なものを含め、5 万点におよびます。松代藩真田家の歴史と大名道具を紹介する常設展示室とテーマを定めて企画展、特別展が行われる企画展示室からなっています。

3、真田邸

真田邸は、9 代目藩主・幸教が、義母、貞松院の隠居所として 1864 年（元治元年）に建築した松代城の城外御殿で、当時は新御殿と呼ばれていた。後に、隠居後の幸教もここを住まいとし、明治以降は伯爵となった真田氏の私邸となった。主屋、表門、土蔵 7 棟、庭園が江戸末期の御殿建築の様式であり、松代城と共に国に史跡に指定されている。屋敷の中には広い廊下やたくさんの部屋があり、その一室で真田邸を紹介する動画が放映されていた。



4, 文武学校

文武学校は、江戸時代 後期に創設された藩校である。文武を奨励した8代藩主、真田幸貫が計画し、9代藩主、真田幸教が1855に(安政2年)に開校した。教室にあたる文学所、武術を学ぶ剣術所、柔術所、弓術所、槍術所などが配置されている。明治時代初期に廃止されたが、藩校の建物は昭和期まで学校として使用されていた。



所感

今回は長野県長野市を視察しました。具体的には、松代城跡、真田宝物館、真田邸、文武学校でしたが、松代城は築城時期が不明ではあるが、武田信玄と上杉謙信の川中島の戦い（1553年）の拠点であったとのことからすると、400年以上前に建築された古城であることは確かである。その後、江戸時代に松代藩主の真田信之によって松代城を中心に城下町が築き上げられ、9代藩主、真田幸教が1855年(安政2年)に文武学校を開校など教育、文化に対して多大な影響を及ぼしている。また昭和41年、真田家12代当主・真田幸治氏が大名道具（国の重要文化財を含む）、約5万点を松代町に寄贈し、真田宝物館という市立博物館が建築されるなど、松代町における貢献は計り知れない。更に驚かされたのは、真田家14代当主の真田幸俊氏は、今もなお健在で首都圏に住み、真田松代藩真田十万石まつりという行事には、毎年参加されているとのことだ。このように何百年にも渡り、真田家は今もなお、連綿と地域に貢献し続けていることは、おそれおおく畏敬の念に堪えない。また松代の地域住民も真田家に対する敬意の念は並々ならぬものがあり、令和という現代においても地域の拠り所として、君臨し続けていることは、真田家が長きにわたり地域に貢献してきたことを物語っていると言えるであろう。今回は松代町を通じて地域に郷土愛がどのように醸成されてきたかを学ばせてもらったが、それぞれの地域にそれぞれの歴史や文化があり、それは千差万別である。本市においては、お殿様やお城の存在はないが、今一度本市の歴史や文化を学び直し、郷土愛の醸成を独自に模索し続けていかなければならないと思いました。